



続・図書館の使い方 ~ 図書館マスターへの道 ~

過去の新聞 どこにあるの？



★図書館中央にある本棚の下に「過去の新聞」を配置していません。貸し出しはしていませんが、館内では自由に読んでください。

「新書」は 新しい本じゃない？！



★「新しい本」ではなく、新書判という細長いサイズの本のこと。入門書や教養書として、特定の分野の知識を気軽に学ぶことができます。

エッセイ・日記・随筆って なんだろう...？



★エッセイは体験を書いたもの、日記もこれに入ります。随筆も自分の考えや体験・感想を自由に書いたもので、小説のように作られた物語とは異なります。

ぐるぐる回る 「文庫本」



★「文庫本」は単行本が発売されて、しばらくたってから発売される小型の本。価格も安く、持ち運びしやすいのが特徴です。裏表紙に要約があるので読む前の参考になります。

国語の教科書で 紹介されている本



★学年ごとに数字のシールが貼ってありますので参考にしてください。

「外国文学」 外国人の著者が書いた本



★9類の「文学」は、日本人作家と外国人作家を分けて配置しています。外国人の作家も名字順に並んでいます。

作家紹介



原田 マハさん
(1962年 東京生まれ)

数年前、2年生の生徒から「単行本を最後まで読み切ったことがない...」と相談を受けました。最後までなかなか読み切れず、読書にストレスを感じていたようです。そこで、最近関心があることや部活動などについて聞いてみました。彼女は「海外とか？パリとか好きです」とのこと。その時に紹介したのがこちらの本でした。



「ジヴェルニーの食卓」

印象派を代表する4人の巨匠（マティス、ドガ、セザンヌ、モネ）の人生を彼らと関わりのあった女性たちの視点から描いた短編集。画家たちの人生や葛藤を当時の色彩や光の描写とともに鮮やかに蘇らせ、まさに『読む美術館』と呼ぶにふさわしい一冊。

「あっという間に読めて自分でもびっくりした！ヨーロッパの話がたくさん出てきておもしろかった」と後で感想を教えてくださいました。原田マハさんは、ニューヨーク近代美術館や森美術館の設立に携わったというキュレーターとしての経歴があり、その深い美術知識と感性を活かし、実在の名画や画家の人生をドラマチックに描く作風で読者を魅了している作家さんです。



朝井 リョウさん
(1989年 岐阜生まれ)

先日、本屋大賞を受賞されましたね。大学在学中に作家としてデビューし、戦後最年少で「直木賞」を受賞されました。小学生の頃から作品を出版社に送っていたそうです。テレビやYouTube、ラジオにもよく出演されていますが、おしゃべりも上手でわかりやすく、話し言葉にも魅了されます。



「イン・ザ・メガチャーチ」



「本屋大賞」受賞作品

「推し活」がテーマの小説。メガチャーチとは、2千人以上収容できる巨大な教会のこと。主人公たちは「信じるものがある人と信じられない人」そして「物語を消費する側と提供する側」に分かれ、激しく葛藤。あるひとつの「物語」が世界を動かすほどの大きな力を持った時、その影でこぼれ落ちてしまう個人の感情、SNS時代の「正しさ」の危うさを描いたスリリングな群像劇。

受賞のスピーチで「自分は圧倒的主人公を描く小説家と違って共同体を描いている」とおっしゃっていました。デビュー作の「桐島、部活やめるってよ」は高校生のスクールカーストを描いた作品。直木賞作品の「何者」はSNS時代の就職活動を通じ、現代人の自意識を浮き彫りにした作品。「共同体」が社会に及ぼす影響に興味があるそうです。若者の自意識や人間関係を鋭く描く、平成生まれの直木賞作家さんです。